

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【芸術科／書道Ⅰ】

1. 対象 高校1年次
2. 単元名 「漢字の書 さまざまな行書古典に学ぼう」（全8時間）
3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。
思考力、判断力、表現力等	古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫する。
学びに向かう力、人間性等	主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
行書の多様な書風について、どのような違いがあるかを用筆法の特徴から考える。

考えるための材料			
行書の特徴 円運動	行書の古典 蘭亭序 祭姪文稿	用筆法 側筆と直筆、順筆と逆筆、露鋒と蔵鋒、 俯仰法、遅速緩急、抑揚	書を構成する要素 線質・字形・構成 (墨色・余白)
王羲之「蘭亭序」（教科書 p 18～25、「九由」） 顔真卿「祭姪文稿」（教科書 p 、プリント、「九申」） 王羲之「蘭亭序」の運筆動画 顔真卿「祭姪文稿」の運筆動画 筆墨硯紙 その他書道用具			
想定される活動			
用筆法を理解することによって、書風の違いを表現できることに気付く。 行書の中にも多様な書の美しさがあり、その良さを踏まえて効果的に表現するためには、深い観察眼と技能が必要なことに気付く。			

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※設定する対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）を簡潔に記入してください。

グループ形態 4人組

- 蘭亭序と祭姪文稿「九」「由・申」を比較して、どのような表現方法(用筆法)の違いがあるかを考える。

※対話や思考のプロセスを想定し、生徒の言葉で具体的に記入してください。

- 太さが違う。
- 大きさが違う。
- 速さが違う。
- 筆管の角度は、側筆かな、直筆かな？
- 直筆で書くとどうなるの？
- 起筆は、順筆かな、逆筆を使っている所もあるじゃない？
- 穂先は、露鋒かな、蔵鋒かな？
- 送筆は、引くのかな、突くのかな？
- 蘭亭序は、俯仰法を使っているというけど、祭姪文稿はどうなんだろう。
- 送筆の速度は速いと思うけれど、速く書けないね。
- この点画は、一つの点画にも速度の変化が見えるね。それって抑揚のことじゃね？
- リズミカルに動いている感じがする。
- それぞれの古典には背景があったけれど、気持ちの変化による表現の違いってないかなあ？
- 祭姪文稿って激しくない…、荒れている感じがする…
- 蘭亭序は祭姪文稿に比べて優雅だよな。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

※設定した「解決したい課題や問い」に対する生徒のあらわれを想定し、生徒の言葉で具体的に記入してください。

- 蘭亭序は、宴会の中で書き上げたって言うよね。穏やかな中に流れるような雰囲気があるなあ。
- 祭姪文稿は、戦死した姪（甥）のに対する弔辞の草稿なんだって。哀しみと怒りが筆圧に表れているような気がする。
- 行書は、その場の雰囲気や感情によって表現が変わるような気がするね。
- 用筆法の違いが書風の違いにダイレクトに伝わるね。
- 書を構成するためには、時間性と空間性を理解して表現することが大事なんだね。